

ぼくのそばかす

天王小・2 山本 ひろと

ぼくにはそばかすがあります。目の下あたりにたくさんあります。数えきれないくらいたくさんあります。

今まではそんなに気になっていなかったけど、さいきんみんなから、

「何か黒いの、ついているよ。」

と言われます。本当のことだけど、きゆうに言われると、いじわるを言われているような気分になっていやだなと思います。

みんなにいじわるを言われないようにしたいなと思ったので、お母さんとひふ科のびょういんに行きました。もしかして手じゅつになつたりしたらどうしようと思ってふあんでした。お母さんもむかしからなやんでいたので、いっしょになおしたいと思ってゆう気を出して行きました。

雨がざあざあふっている日だったのに、明るいびょういんでした。ソファアは少しつめたかったです。

「山本ひろとさあん。」

ついにじゅん番がきたなと思って、はや歩きでしんさつ室に入りました。

先生は青いふくをきた女の人で、頭の高さを合わせてぼくに話しかけてきました。先生がやさしい人でほっとしました。

「そばかすは、いでんだよ。レーザーでちりょうをすると、すぐに

消えるよ。だけど、ちよつといたくて、また、できてしまうかもしれないんだよ。」

と先生が言いました。そばかすはお母さんにもいっぱいあるから、いでんでぼくにもできたんだなと、なつとくしました。そして、レーザーがどのくらいいいのかすぐくしんばいで、また、ふあんな気もちになりました。せつかくいたいちりょうをしても、またすぐできてしまうのはもつたいたいと思つたので、

「もう少し大きくなってから考えます。」

と言って、何もせずに帰ってきました。どうやら、そばかすはすぐにはきえそうにありません。

しかたがないので、みんながそばかすのことを聞いてきたときのためにへんじのよういをしておこうと思いました。

ぼくが考えた一つ目の作せんは、

「どれが当たりでしょうか。」

とクイズみたいにおもしろく言う作せんです。そうすると、答えを考えることにむちゆうになつてしまうから、いじわるを言う時間はないのです。そして、話がわらつておわるといいなと思ひました。

二つ目は、そばかすが星みたいにいっぱいあるので、

「せいぎをさがしてみよう。」

と、たくさん星がたのそばかすをさがしてもらう作せんです。この言い方だと、そんなさいぎがあるか勉強になるので、大人にもばつちりだなど思ひました。

へんじのよういをお母さんと考えたけど、やつぱり顔をじろじろ見られるのは、いやな気もちになると思ひます。どんなにいへんじの作せんを思ひついたらとしても、本当は、やめてほしいです。

ぼくはこれから、友だちの見た目のことを言わないように気をつけようときめました。みんなと少しちがうなところを見つけると、いじわるをするつもりじゃないけど、じつはぼくも言いたくなるときがあります。うっかりしていると喋ってしまうかもしれない。だから、言わないようにしようときめました。みんなも大人も気をつけたら、いじわるを言われているような気がしてかなしくなる人がへると思います。そして、みんながあんしんしてどうどうとすごせるあたたいせかいになって、もつとすてきだなと思いました。

今は、そばかすがマスクでかくれることがあるけど、自分の中ではいつでもあります。やっぱりまだすぐにそばかすをすきになれそうにありません。